



日语教育与日本学研究

——大学日语教育研究国际研讨会论文集(2014)

..... 主编 / 刘晓芳 副主编 / 毛文伟 徐曙 钱晓波 朱卫红 杜勤 张厚泉



华东理工大学出版社



日语教育与日本学研究

——大学日语教育研究国际研讨会论文集（2014）

主 编 / 刘晓芳

副主编 / 毛文伟

徐 曙

钱晓波

朱卫红

杜 勤

张厚泉



华东理工大学出版社

上海

图书在版编目(CIP)数据

日语教育与日本学研究——大学日语教育研究国际研讨会论文集(2014)/刘晓芳主编.
—上海:华东理工大学出版社,2015.5

ISBN 978-7-5628-4264-4

I. ①日… II. ①刘… III. ①日语-教学研究-高等学校-文集 IV. ①H369.3-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 086807 号

日语教育与日本学研究

——大学日语教育研究国际研讨会论文集(2014)

主 编 刘晓芳

副主编 毛文伟 徐 曙 钱晓波 朱卫红 杜 勤 张厚泉

责任编辑 / 金美玉

责任校对 / 金慧娟

封面设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

社 址: 上海市梅陇路 130 号, 200237

电 话: (021)64250306(营销部)

(021)64252713(编辑室)

传 真: (021)64252707

网 址: press.ecust.edu.cn

印 刷 / 常熟市新骅印刷有限公司

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 16.25

字 数 / 423 千字

版 次 / 2015 年 5 月第 1 版

印 次 / 2015 年 5 月第 1 次

书 号 / ISBN 978-7-5628-4264-4

定 价 / 198.00 元

联系我们: 电子邮箱 press_wy@ecust.edu.cn

官方微博 e.weibo.com/ecustpress

天猫旗舰店 <http://hdlgdxbs.tmall.com>

华东理工大学出版社



客户服务热线 4006185226

前 言

2014年5月17日上午,由中国日语教学研究会上海分会举办的“2014年大学日语教育与日本学研究国际研讨会”在同济大学外国语学院同文楼大厅隆重召开。本次会议特别邀请了日本关西学院大学于康教授(《日本語の誤用研究のためのソフト開発と誤用コーパスの構築》)和北京日本学研究中心副主任曹大峰教授(《日语专业研究生教育的回顾与思考》)为大会作了精彩的基调演讲。华东理工大学出版社在开幕式上揭开了向全国100所高校赠送100本图书活动的序幕。

本次研讨会一如既往地得到了华东理工大学出版社、新世界教育集团、卡西欧上海贸易有限公司、J-TEST中国事务局和北京大学出版社、上海交通大学出版社等单位的大力支持。来自国内40多所高校的近百名专家学者及来自日本早稻田大学、法政大学、大阪大学、名古屋大学、东北大学、九州大学等十多所日本各大学的代表与韩国、美国等地学者参加了本次研讨会。17日下午,来自《日语学习与研究》的李广悦主任为青年教师做了“杂志选题介绍及写作规范”的讲座。18日上午,来自北京师范大学、华东师范大学、上海外国语大学、洛阳外国语学院和日本关西学院大学等近十所国内外大学的研究生导师就“研究生的培养问题”进行了专题探讨。各分会场的研讨气氛十分活跃,得到了与会专家们的好评,其学术影响力再一次得到了日语界同仁的认同。大会于18日成功闭幕。

作为本次研讨会成果的具体体现,本论文集所收录的论文是各位参会者结合会议研讨意见之后认真修改后提交的。我们根据这些年的实践经验,特别充实了编委会的力量,并请专家们对投稿论文进行了认真的审阅和遴选,以保证论文集的质量。本论文集继续秉承我们一贯的宗旨:不奢求一流或领先之类的虚名,却祈愿共同以诚实、诚恳的态度来经营好这片学术园地。希望继续得到各位行家的批评指正,并希望借此凝聚日语教育与日本学研究的中坚力量,为我国日语界的繁荣尽一份绵薄之力!

《2014年日语教育与日本学研究国际研讨会论文集》编委会

中国日语教学研究会上海分会

2015年3月23日

目 录

日本語教育

日本語話者と中国語話者の「～てならない」と「～てたまらない」

——〇×式正誤判断テストと四者択一テストの比較……………杉村泰(1)

有対自他動詞の選択に関する日本語母語話者と学習者の比較……………呂雷寧(6)

中国人日本語学習者による副詞の習得……………初相娟 大和祐子 王冲(11)

プロジェクトワークを取り入れた日本語授業活動の実践研究

——非日本語専攻の授業を中心に……………聞芸 唐曉煜(16)

話題の展開とラポールマネジメントに関する一考察

——日中大学生接触場面の初対面会話をもとに……………季珂南(21)

日本語会話教授法に関する一考察 ③

——エブリワンタイムのススメ……………澤田依子(25)

国内日语专业基础阶段精读教材中基本词汇的计量考察

——以《新编日语(修订本)》和《综合日语(修订版)》为对象……………白晓光(29)

課外協同学習におけるポートフォリオの試み……………張麗梅(34)

日汉语篇比较翻译教学法之探索……………张秀梅(41)

日语教学中的数词用法探讨……………左翼(44)

不赞同言语行为的研究概述

——以汉语语境为中心……………王玉明 闻芸(50)

基于视频语料库的日语授受表现的考察

——「～にもらう」和「～からもらう」的对照研究……………刘艳伟 赵秀云 邹善军(55)

留学生ゼミにおける日本語教育の試み

——俳句制作を通して……………池間里代子(60)

学生が創る日本語・日本文化の学びの場

——国際共修ゼミ「サマーコースを企画する」の実践を通じて

……………虫明美喜 押谷祐子 金文浩 佐藤勢紀子(65)

浅谈高校日语青年教师的困惑与需求……………张丽珺(70)

日语专业人文教学理念之思考与实践……………洪优(75)

贵州省日语方向研究生教育的现状和课题……………陈芳(80)

助言談話の中日比較

——ストラテジーに着目して……………張穎 田崎敦子(84)

日本语学

- 述語と格成分の共起関係 皮細庚(89)
- 日语间接回指中回指语的功能研究 马兰英(96)
- 「てもらう」文について——使役文・受身文との関係を中心に 李晶(101)
- 「V(ヨ)ウトスル」に見られる動作性をめぐって 楊曉敏(106)
- 日中両言語における呼称詞についての対照研究
——ポライトネス理論の観点から 劉寧 孫猛(111)
- 「数量詞十ダケ」に対応する中国語の表現について 張培(116)
- 日语语态中使役和被动及相互关系 傅冰(121)
- 文章の構成的接続 劉志昱(127)
- 存在構文に関する中日認知比較研究 黃春玉(132)
- 「NはN」などについての認知構文論的な考察 李森(135)
- 複数のノ格名詞(句)が連体修飾語になる構造に関する一考察 蔣蓓(140)
- オノマトペの音象徵研究に対する再認識
——音象徵的意味を中心に 唐曉煜 王玉明(144)

日本文学与翻译

- 志賀直哉「城の崎にて」における死の〈他性〉 宮山昌治(150)
- 「愛と別れ」の文学と人生
——寂聴の『夏の終わり』を中心に 戚暢(161)
- 『源氏物語』明石入道論——七絃琴の視点から 笹生美貴子(166)
- 『日本霊異記』における「力女」説話に関する一考察 梁海燕(171)
- 日本における牡丹の文化的受容
——謡曲『石橋』を中心にして 雨宮久美(175)
- 漢詩人の『源氏物語』への関心
——原古処「讀源語 五十四首」を中心に 小谷喜久江(180)
- 『落窪物語』の誤訳から考えるもの 徐迎春(187)
- 加藤武雄作品在中国的翻译与接受 梁艳(192)
- 向田邦子小说作品中的现实主义——以《花的名字》为例 牟海晶(202)
- 『田園の憂鬱』と『都会の憂鬱』との比較分析
——「憂鬱」の意味変化 徐曉然(206)

日本经济文化与社会

- 日本国外における日本式サービスの展開
——「うどん」の国際進出から 渡部順一(212)
- 地域企業との連携によるPBL型新商品開発マーケティング 佐藤飛鳥(216)
- 広告キャッチコピーを通じてみる日中嗜好文化 李優貴(221)
- 日本のキャリア中期における女性のキャリア再形成 薄葉祐子(225)
- 日本鼓励老年人再就业的实践与政策选择 马利中(230)

日本文化中对恶的认识	魏丽华(235)
怨灵与冤鬼・厉鬼差异浅析	张彩虹(239)
「お姉ちゃん」と「お兄ちゃん」についての小論	朴惠英(244)
重陽の節句における受容と変容	張燕(248)

日本語話者と中国語話者の「～てならない」と「～てたまらない」

——○×式正誤判断テストと四者択一テストの比較

名古屋大学 杉村泰

1 はじめに

日本語の「～てならない」と「～てたまらない」は、いずれも「～」に来る動詞や形容詞で表される事態の甚だしさを表す表現である。杉村(2007a)では日本語話者と中国語話者に○×式正誤判断テストを行い、母語話者は、「～てならない」は「気がする」「思える」などと共起して自然にある思いが込み上げて来て頭から離れないほど甚だしいことを表し、「～てたまらない」は「寂しい」「暑い」などと共起して精神的・身体的な刺激によって生じる感情や感覚の程度が耐えられないほど甚だしいことを表し(p.10)、中国語話者は両形式とも母語話者の「～てたまらない」と似た理解を示していることを指摘した。これを受け、杉村(2012)では「中国語話者による日本語の複合助辞「～てならない」の許容意識には母語である中国語の“～得不得了”からの転移による可能性がある」(p.31)と主張した。また、杉村(2007b)でも論じたように、○×式正誤判断テストが「言える・言えない」の「許容度」を判断するテストであるのに対し、択一テストは「どの項目が一番言いやすいか」という「選択率」を判断するテストであるという違いがある。そこで本稿では、日本語話者と中国語話者の「～てならない」と「～てたまらない」における○×式正誤判断テストと四者択一テストの結果の違いを比較する。

2 アンケート調査の概要

本稿では二種類のアンケートテストを利用して分析を行う。一つは「○×式正誤判断テスト」で、被験者に文脈抜きの「～てならない」と「～てたまらない」各72項目を示し、言えると思えば「○」、言えないと思えば「×」のどちらか一つを入れさせた¹。もう一つは「四者択一テスト」で、文脈抜きの72項目の「～て(ならない/たまらない/しかたがない/×)」について、最もふさわしいと思うものを一つ選ばせた²。

〔被験者〕

① ○×式正誤判断テスト(杉村2007aと同じデータ)

- 1 文脈をつけなかったのは、文脈なしでもその表現がぱっと頭に浮かびやすいかどうかを見るためである。72の動詞および形容詞については杉村(2007a)を参照。
- 2 類義語の「～てしかたがない」も加えた。また、「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」のいずれも不自然であると思った場合には「×」を選ばせた。

日本語話者「～てならない」：名古屋大学生58名(2004年5月に実施)

「～てたまらない」：名古屋大学生50名(2005年5月に実施)

中国語話者「～てならない」：北京第二外国語学院・上海外国語大学・東呉大学の上級学習者、合計149名(2004年11—12月に実施)

「～てたまらない」：北京第二外国語学院・上海外国語大学・東呉大学の上級学習者、合計150名(2005年3月に実施)

② 四者択一テスト(今回新たにといったデータ)

日本語話者：名古屋大学生87名(2013年10月に実施)

中国語話者：蘇州大学・蘇州大学文正学院・蘇州大学応用技術学院・華南理工大学・燕山大学の上級学習者、合計77名(2013年10—12月に実施)

3 分析

本稿では紙幅の都合上、各テストの上位10位までを分析の対象とする。以下、表1～表8の「なら」は「ならない」、「たま」は「たまらない」、「しか」は「しかたがない」の略である。また、許容度順になっている部分と形容詞を網掛けにした。

3.1 ○×式正誤判断テストの結果

まず、○×式正誤判断テストの結果から見る。杉村(2007a)で指摘したように、日本語話者の場合、「～てならない」は「気がする」「思える」など自発を表す表現と共起し、「～てたまらない」は「暑い」「痛い」など精神的・身体的な刺激を表す表現と共起する傾向がある。ただし、「～てならない」も「～てたまらない」も許容度が高いものはお互いの許容度も70%弱以上の許容度がある。一方、中国語話者の場合は、「気がする」「思える」「笑える」のような自発を表す動詞は「～てならない」や「～てたまらない」と共起しにくい(表1、表2)。

表1 日本語話者の「～てならない」
の許容度上位10語(%)

	日本語話者		中国語話者	
	なら	たま	なら	たま
気がして	91.4	86.0	51.0	44.0
思えて	89.7	66.0	34.2	26.0
寂しくて	84.5	98.0	93.3	97.3
残念で	84.5	76.0	75.2	67.3
うるさくて	81.0	96.0	87.9	89.3
喉が渴いて	81.0	96.0	85.2	90.0
嫌で	81.0	96.0	75.8	73.3
腹が立って	77.6	88.0	74.5	71.3
気になって	77.6	92.0	70.8	60.7
笑えて	77.6	74.0	34.9	30.7

表2 日本語話者の「～てたまらない」
の許容度上位10語(%)

	日本語話者		中国語話者	
	なら	たま	なら	たま
寂しくて	84.5	98.0	93.3	97.3
暑くて	67.2	98.0	86.0	93.3
寒くて	69.0	96.0	86.6	93.3
痛くて	65.5	96.0	89.9	93.3
喉が渴いて	81.0	96.0	85.2	90.0
うるさくて	81.0	96.0	87.9	89.3
嫌で	81.0	96.0	75.8	73.3
苦しくて	67.2	94.0	88.6	91.3
うれしくて	69.0	92.0	79.9	89.3
気になって	77.6	92.0	70.8	60.7

また、中国語話者の場合、「～てならない」も「～てたまらない」も上位には精神的・身体的

な刺激を表す表現が来やすく、いずれも日本語話者の「～てたまらない」に似た傾向を示している(表3、表4)。

表3 中国語話者の「～てならない」
の許容度上位10語(%)

	日本語話者		中国語話者	
	なら	たま	なら	たま
寂しくて	84.5	98.0	93.3	97.3
痛くて	65.5	96.0	89.9	93.3
苦しくて	67.2	94.0	88.6	91.3
うるさくて	81.0	96.0	87.9	89.3
寒くて	69.0	96.0	86.6	93.3
暑くて	67.2	98.0	86.0	93.3
喉が渴いて	81.0	96.0	85.2	90.0
慌てて	17.2	2.0	82.6	76.7
うれしくて	69.0	92.0	79.9	89.3
恐ろしくて	67.2	80.0	79.2	80.7

表4 中国語話者の「～てたまらない」
の許容度上位10語(%)

	日本語話者		中国語話者	
	なら	たま	なら	たま
寂しくて	84.5	98.0	93.3	97.3
暑くて	67.2	98.0	86.0	93.3
痛くて	65.5	96.0	89.9	93.3
寒くて	69.0	96.0	86.6	93.3
苦しくて	67.2	94.0	88.6	91.3
喉が渴いて	81.0	96.0	85.2	90.0
辛くて	22.4	82.0	73.2	90.0
うるさくて	81.0	96.0	87.9	89.3
うれしくて	69.0	92.0	79.9	89.3
感動して	19.0	36.0	74.5	86.0

3.2 四者択一テストの結果

次に四者択一テストの結果を見る。まず日本語話者の選択率上位10語から見ていく(表5、表6)。この場合も日本語話者の「～てならない」は自発を表す表現と共起し、「～てたまらない」は精神的・身体的な刺激を表す表現と共起する傾向がある。しかし、先のテストとは違い、上位に来るものは「～てならない」や「～てたまらない」への集中度が高い。一方、中国語話者の「～てたまらない」の選択率は日本語話者同様に集中度が高いが、「～てならない」の選択率は日本語話者ほど集中度が高くないことが分かる。

表5 日本語話者の「～てならない」の選択率上位10語(%)

	日本語話者				中国語話者			
	なら	たま	しか	×	なら	たま	しか	×
気がして	77.0	8.0	14.9	0.0	46.8	19.5	23.4	10.4
残念で	72.4	5.7	21.8	0.0	28.6	26.0	37.7	7.8
思えて	69.0	3.4	26.4	1.1	35.1	27.3	18.2	19.5
感じられて	57.5	9.2	27.6	5.7	35.1	24.7	29.9	10.4
思われて	55.2	4.6	37.9	2.3	37.7	9.1	37.7	15.6
考えて	52.9	2.3	11.5	33.3	46.8	15.6	18.2	19.5
想像されて	49.4	9.2	18.4	23.0	48.1	14.3	23.4	14.3
考えられて	49.4	9.2	20.7	20.7	37.7	18.2	32.5	11.7
聞こえて	49.4	11.5	27.6	11.5	33.8	19.5	23.4	23.4
感じて	46.0	9.2	27.6	17.2	54.5	15.6	14.3	15.6

表6 日本語話者の「～てたまらない」の選択率上位10語(%)

	日本語話者				中国語話者			
	なら	たま	しか	×	なら	たま	しか	×
痛くて	9.2	70.1	19.5	1.1	10.4	75.3	11.7	2.6
おいしくて	5.7	70.1	13.8	10.3	24.7	59.7	11.7	3.9
好きで	5.7	67.8	23.0	3.4	26.0	48.1	20.8	5.2
暑くて	9.2	66.7	24.1	0.0	13.0	76.6	10.4	0.0
まずくて	11.5	63.2	16.1	9.2	11.7	61.0	22.1	5.2
寒くて	12.6	62.1	25.3	0.0	11.7	76.6	10.4	1.3
苦しくて	21.8	60.9	16.1	1.1	15.6	72.7	9.1	2.6
うれしくて	11.5	58.6	28.7	1.1	18.2	58.4	19.5	3.9
辛くて	11.5	57.5	21.8	9.2	18.2	71.4	6.5	3.9
恐くて	11.5	56.3	29.9	2.3	23.4	53.2	16.9	6.5

次に、中国語話者の選択率上位10語を見る(表7、表8)。この場合に「～てならない」で特徴的なのは、日本語話者が「～てならない」の典型例と捉える「気がする」「残念だ」「思える」などの選択率は高くないものの、○×式正誤判断テストとは違って「暑い」「痛い」など精神的・身体的な刺激を表す表現は上位に来ないという点である。また、日本語話者なら「×」を選択しやすい「見る」「聞く」「分かる」「元気だ」「赤い」などの選択率が高く、非文の判断が効きにくいということも特徴の一つである。一方、「～てたまらない」の場合は中国語話者も「暑い」「痛い」など精神的・身体的な刺激を表す表現が上位に来て、日本語話者よりも集中度が高くなる傾向が見られる。

表7 中国語話者の「～てならない」の選択率上位10語(%)

	日本語話者				中国語話者			
	なら	たま	しか	×	なら	たま	しか	×
感じて	46.0	9.2	27.6	17.2	54.5	15.6	14.3	15.6
想像されて	49.4	9.2	18.4	23.0	48.1	14.3	23.4	14.3
気がして	77.0	8.0	14.9	0.0	46.8	19.5	23.4	10.4
考えて	52.9	2.3	11.5	33.3	46.8	15.6	18.2	19.5
元気で	19.5	12.6	26.4	41.4	46.8	16.9	11.7	24.7
期待されて	27.6	23.0	26.4	23.0	45.5	22.1	24.7	7.8
見て	27.6	16.1	3.4	52.9	45.5	22.1	15.6	16.9
分かって	25.3	17.2	10.3	47.1	45.5	7.8	13.0	33.8
聞いて	26.4	10.3	6.9	56.3	42.9	24.7	18.2	14.3
赤くて	13.8	20.7	14.9	50.6	41.6	36.4	7.8	14.3

表8 中国語話者の「～てたまらない」の選択率上位10語(%)

	日本語話者				中国語話者			
	なら	たま	しか	×	なら	たま	しか	×
喉が渴いて	10.3	33.3	56.3	0.0	3.9	84.4	10.4	1.3
暑くて	9.2	66.7	24.1	0.0	13.0	76.6	10.4	0.0
寒くて	12.6	62.1	25.3	0.0	11.7	76.6	10.4	1.3
痛くて	9.2	70.1	19.5	1.1	10.4	75.3	11.7	2.6
冷たくて	16.1	51.7	19.5	12.6	13.0	75.3	11.7	0.0
うるさくて	18.4	43.7	36.8	1.1	10.4	74.0	14.3	1.3
苦しくて	21.8	60.9	16.1	1.1	15.6	72.7	9.1	2.6
辛くて	11.5	57.5	21.8	9.2	18.2	71.4	6.5	3.9
痛んで	23.0	31.0	28.7	17.2	11.7	70.1	16.9	1.3
甘くて	11.5	50.6	23.0	14.9	22.1	66.2	5.2	6.5

4 まとめ

以上の結果、中国語話者は「～てならない」も「～てたまらない」も日本語話者の「～てたまらない」の許容度に似た反応を示し、両者を選択する際には「～てならない」の選択は抑制され、「～てたまらない」の選択が促進されることが明らかとなった。

参考文献

- [1] 杉村泰(2007a)「「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の使い分け」、『世界の日本語教育』,第17号,国際交流基金,pp.1-15.
- [2] 杉村泰(2007b)「インターネットを利用した日本語の類義分析」、『言語』,2007年7月号,第36巻第7号(通巻432号),pp.42-49,大修館書店.
- [3] 杉村泰(2012)「中国語話者による日本語の複合助辞「～てならない」の許容意識と中国語の“～得不得了”による言語転移の可能性について」、『中国語話者のための日本語教育研究』,第3号,中国語話者のための日本語教育研究会,pp.18-32.

作者情報

氏名: 杉村泰

役職名: 准教授

所属機関: 名古屋大学

連絡先住所: 日本 名古屋市千種区不老町 B4-5(700)

メールアドレス: sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

有対自他動詞の選択に関する日本語 母語話者と学習者の比較

上海財経大学 呂雷寧

1 研究目的

日本語の有対自他動詞¹は様々な文法項目に緊密に関わっており、習得の難点である。可能に関して言えば、有対自動詞が特に難しくて、本来自動詞で表すべきところ、学習者には可能形のほか、しばしば他動詞の可能形が用いられる傾向があると、これまで多くの研究者によって指摘されてきた。

(1)a. 人数ばかり多くても、仕事の能率は上がらない。

b.*人数ばかり多くても、仕事の能率は上がれない。

c.?人数ばかり多くても、仕事の能率は上げられない。

上の(1)は自動詞だけが適格な文で、日本語母語話者ならば自動詞「上がる」を用いる。それに対して、学習者には自動詞の可能形「上がれる」、他動詞の可能形「上げられる」といった誤用が見られる。果たして、すべての有対自他動詞においては、母語話者と学習者の間にこのような対立が見られるだろうか。本稿では、それを究明するために、母語話者と中国語を母語とする学習者について調査する。

2 先行研究

可能の観点から有対自動詞に対する中国人学習者の習得について行った研究としては、小林(1996)、封(2005)、呂(2014)などが挙げられる。

小林(1996)は有対自他動詞「開く/開ける」を例に、中上級クラスの学習者を対象に調査した結果、母語話者が「開く」を好む傾向が顕著であるのに対して、日本語力の高い学習者は「開けられる」の使用傾向が強いという。この傾向はほかの有対自動詞にも同様に見られるかどうかは、小林では触れられていない。

それに対して、呂(2014)はN1レベルの上級学習者に文正誤判断課題における反応時間と誤答率を測定する実験を行い、広範囲にわたる有対自他動詞の習得状況について調べた結果に基づき、可能表現において有対自動詞と有対他動詞のいずれも習得しにくいと指摘してい

1 本稿では、早津(1987)に従い、「(お金が)集まる/(お金を)集める」「(荷物が)入る/(荷物を)入れる」「(病人が)助かる/(病人を)助ける」「混ざる」のような、形態的・意義的・統語的に対応する自動詞と他動詞を「有対自動詞」「有対他動詞」と称し、両者を合わせて「有対自他動詞」と略称する。

る。しかし呂は、有対自他動詞全般における習得の問題を明らかにしたのにとどまり、いかなる場合に誤用が生じやすいかといった具体的な問題についてまではまったく言及していない。

一方、封(2005)は有対自動詞だけに注目し、形態的特徴が有対自動詞の習得の難易度に関わっているとし、1)対応する他動詞と語末の形態的類似点が目立たない有対自動詞(例: 落ちる、伸びる)と、2)主体の知覚能力を表す有対自動詞(例: 見える、聞こえる)と、3)他動詞可能形と同形の有対自動詞(例: 折れる)、という3類が習得しやすく、それ以外は習得しにくいと述べている。封の調査を概観してみると、最大な問題点は、習得難易度の判断基準がはっきりしていないことであると思われる。例えば、2)類の「見える」と「聞こえる」に関しては、調査ではそれぞれ51%、59%といった正解率しかないにもかかわらず、習得しやすいと判断されている。また、実際3)類の動詞に関する項目が設けられていないため、その習得状況に対する説明は適切ではないと言えよう。

本稿では、上級中国人学習者に焦点を当て、母語話者との比較を通じて、自他選択における特徴を明らかにしたい。

3 調査

3.1 調査の概要

調査はアンケート用紙の配布という形で、2012年7月、名古屋近郊にある某大学日本人学生111名と、2014年4月、上海市内にある某大学日本語学科中国人学生38名を対象に、選択問題からなる調査を実施した。調査対象としての中国人学習者38名全員は母語が中国語で、平均年齢が20歳である。彼らはいずれも外国語学校の出身で、中学から日本語を第一外国語として習い、調査時点ではN1に合格したレベルである。

アンケートは88の選択問題からなっている。設問に用いられる88文はすべて、『外国人のための基本語用例辞典』(第二版)に基づいて作成され、いずれも事物の状態変化を表す有対自動詞文である。次の(2)に示すように、それぞれの設問に、自動詞、自動詞可能形、他動詞、他動詞可能形という4つの選択肢が設けられている¹。

(2) 景気は不安定ではっきりしたことは誰にも分からないが、ドルだけは当分()かもしれない。

A. 上げられない B. 上がれない C. 上がらない D. 上げない

なお、回答の正確性を保つために、4つの選択肢はランダムに配列することにした。そして、回答者が単語を知らないゆえに調査の客観性を損なうのを避けるために、課題文に使われる語句をなるべく分かりやすいものにした。特に問題となる自動詞と他動詞は、OJAD²と

1 ただし、「切れる」といった他動詞可能形と同形の自動詞の場合、下の①のように、「切られる」という選択肢を設けている。また、「縮む」のような、その可能形が他動詞と同形の自動詞の場合、②のように「縮まれる」という選択肢を設けている。

① この包丁はよく()。A. 切られる B. 切れられる C. 切れる D. 切る

② このセーターは熱湯で洗っても()。A. 縮めない B. 縮められない C. 縮まない D. 縮まれない

2 OJADは、国立国語研究所・共同研究プロジェクト「日本語教育のためのコーパスを利用したオンライン日本語アクセント辞書の開発」(代表: 峰松信明、東京大学)により開発されたオンライン日本語辞書である。そこに収録されている単語はそれぞれ習得時期、レベルなど詳しい情報が備わっている。

いうオンライン日本語辞書を参考にして選定され、回答者にとってすべて習得済みで、ほとんどN2レベル以下のものである。

上の方法で作成した設問に対して、回答者に適当なものを選ばせ、2つ以上ある場合、それぞれ優先順位を付けるように指示した。

3.2 調査の結果

88問に対する母語話者の回答の結果は、次の4つの状況に分類することができる。

- 1) 自動詞が適格な場合38問
- 2) 自動詞と他動詞可能形のいずれも容認できるが、自動詞の容認度が高い場合39問
- 3) 自動詞と他動詞可能形のいずれも容認できるが、他動詞可能形の容認度が高い場合9問
- 4) 自動詞と自動詞可能形のいずれも容認できる場合2問

学習者にはどのような傾向が見られるのか、母語話者との間にいかなる差異が見られるだろうか。学習者の回答状況は母語話者のそれと合わせて、次の図1～図4に示すことができる。なお、図における略称は次の通りである。

母自—母語話者・自動詞

学自—学習者・自動詞

母他可能—母語話者・他動詞可能形

学他可能—学習者・他動詞可能形

母自可能—母語話者・自動詞可能形

学自可能—学習者・自動詞可能形

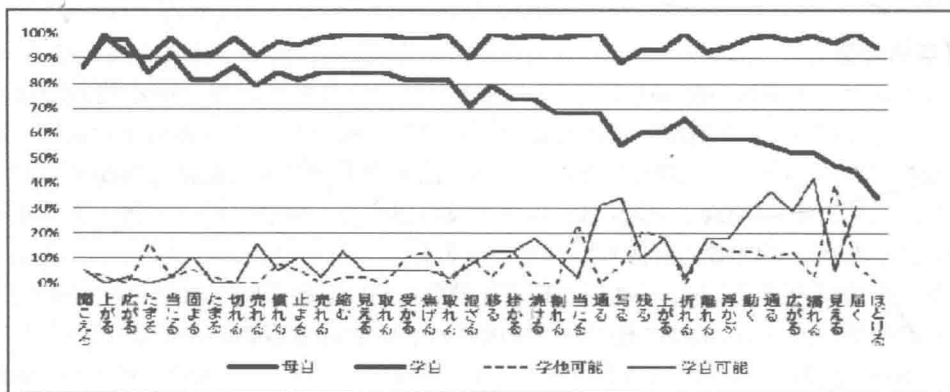


図1 自動詞が適格な場合

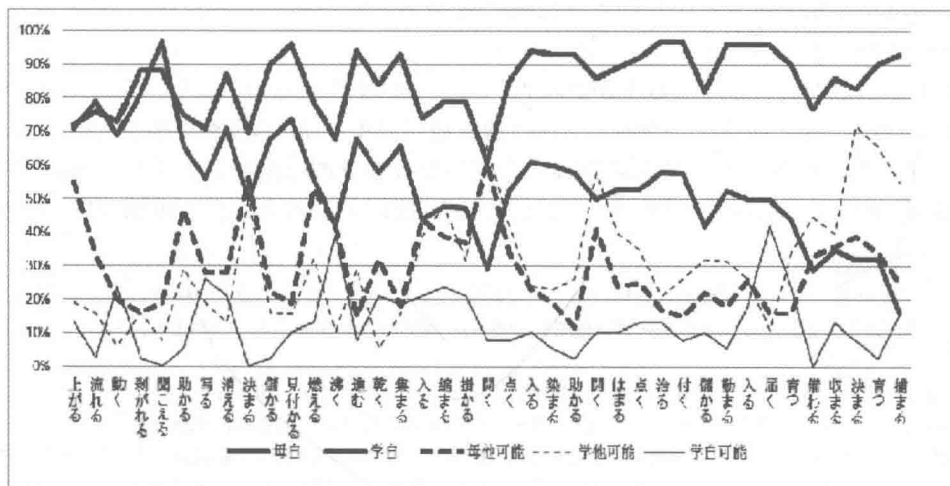


図2 自動詞の容認度が高い場合

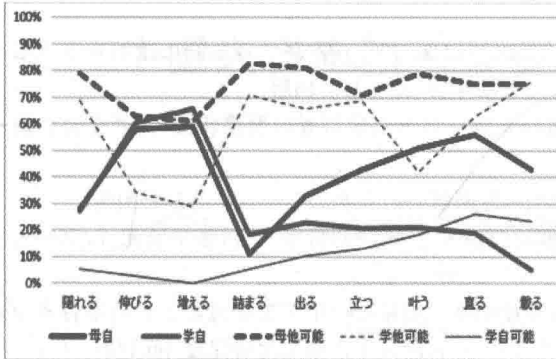


図3 他動詞可能形の容認度が高い場合

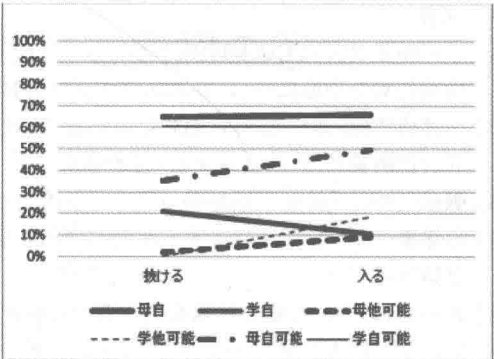


図4 自動詞・自動詞可能形のいずれも容認できる場合

4 分析

上記の図を通じて、調査の結果について見てみよう。母語話者の判断により自動詞が適格、あるいはより容認度が高いのが88設問のうち77問もあり、圧倒的に多かったことから、事物の状態変化を表す場合、日本人は他動詞よりも自動詞を選択する傾向が強いことが窺える。それに対して、中国人学習者は基本的に母語話者と同じく自動詞を選択する傾向を示しているながらも、母語話者との間に差異が見られる。そして、図1と図2から分かるように、その差異は自動詞可能形の誤用と他動詞可能形の過剰使用によるもので、差異が広がるにつれ、これら2つの形式に対する学習者の選択も目立ってくる。

また、図2と図3から、自動詞と他動詞がいずれも容認できる場合、母語話者が一律に自動詞を好んでいるわけではないことと、学習者が必ずしも自動詞よりも他動詞のほうを多用していないことが明らかとなった。自動詞か他動詞か、その選択においては、学習者は母語話者と差こそあれ、全般的には類似した傾向を見せている。

そして、上記の図から、動詞の習得の難易度は動詞の形態だけに由来しているのではなく、同じ動詞であっても習得の状況が一様ではない。例えば、図1における2つの「見える」と、図2における2つの「決まる」は、いずれにも大きなずれが生じている。したがって、有対自他動詞の習得は動詞の形態的特徴以外、文脈などにもその要因を求めるべきであると考えられる。

図4に示している「入る」「抜ける」に関しては、「入れる」「抜けられる」という自動詞可能形を選択した母語話者の割合は学習者に及ばずとも、30%強、50%と高かった。これは、これらの動詞が問題とされる文「この野球場は5万人入る」「悪習はなかなか抜けられない」において意志自動詞とも捉えられるからであると考えられる。

5 おわりに

本稿は有対自他動詞の選択に関する母語話者と学習者の差異について考察したものである。紙幅の関係で、上滑りな分析にとどまり、動詞種別の習得状況やそれに関わる要因などについてはまったく言及できなかった。これは別紙に譲ることとする。

参考文献

- [1] 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』,凡人社大崎志保2005「日本語の自動詞による可能表現—動詞制約を中心に—」,『日本語文法』5(1),日本語文法学会,くろしお出版.
- [2] 小林典子(1996)「相对自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況—」,『文芸言語研究』,言語篇29,筑波大学文芸・言語学系.
- [3] 張威(1998)『結果可能表現の研究—日本語・中国語対照研究の立場から—』,くろしお出版.
- [4] 早津恵美子(1987)「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」,『言語学研究』7,京都大学言語学研究会.
- [5] 封小芹(2005)「可能の意味を含む有対自動詞の産出的能力の習得—中国語を母語とする学習者を対象にした調査に基づいて—」,『ことばの科学』第18号,名古屋大学言語文化研究会,pp.143—161.
- [6] 呂雷寧他(2014)〈可能の観点から見た有対自他動詞の習得〉,《日语教育与日本学研究—大学日语教育研究国际研讨会论文集(2013)》,上海:华东理工大学出版社.

作者信息

氏名: 呂雷寧

所属機関: 上海財經大學

連絡先住所: 〒200433上海市楊浦区国定路777号上海財經大學外國語學院

メールアドレス: leininglu@gmail.com